

(様式2)

「青少年体験活動総合プラン」
実績報告書

| | |
|---------|--|
| 事業名 | おおずふれあいスクール ～ 花瀬若衆塾 ～ |
| 委託期間 | 平成20年6月16日 から 平成21年3月10日 まで |
| 事業完了年月日 | 平成21年3月4日 |
| 事業の種類 | <p>該当する事業の を塗りつぶしてください。()</p> <p>小学校長期自然体験活動支援プロジェクト</p> <p>自然体験活動指導者養成事業〔 全体指導者 補助指導者〕</p> <p>小学校自然体験活動プログラム開発事業</p> <p>青少年の課題に対応した体験活動推進プロジェクト</p> <p>意欲を育む自然体験推進事業</p> <p>{ 青年長期社会体験活動 悩みを抱える青少年の体験活動〔 不登校 ニート〕 幼少期の自然体験 サマーキャンプ 青年リーダー体験 その他のテーマ()</p> <p>多様な場を活用した生活体験推進事業</p> <p>{ 青少年相互交流推進事業 短期山村留学 廃校を活用した生活体験 省庁連携地域ネットワーク型体験活動</p> <p>↓ 下記から必ず複数の体験活動を選択してください。</p> <p>{ 河川での体験活動 漁港や港湾等での体験活動〔 漁港 港湾〕 農業用水路等での体験活動 森林での体験活動 農村等での体験活動 商店街等での体験活動 国立公園等での体験活動</p> |

<連絡担当窓口>

| | |
|----------|----------------------------|
| 氏名（ふりがな） | 尾 上 淳 （おのうえ じゅん） |
| 所属部署・役職名 | 国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職 |
| Eメールアドレス | ozu-pr@niye.go.jp |
| 所在地 | 〒795-0001 愛媛県大洲市北只 1086 |
| 電話番号 | 0 8 9 3 - 2 4 - 5 1 7 5 |
| F A X | 0 8 9 3 - 2 4 - 2 9 0 9 |
| U R L | http://ozu.niye.go.jp/ |

（様式 2 - 1）

各項目の枠は必要に応じて拡げて使用してください。

1. 対象（対象学年・年齢、人数、募集地域等）

不登校生徒（高校生）及びひきこもりがちな青年（22歳程度まで）
人数： 15名 募集地域： 愛媛県内

2. 事業運営会議

（1）構成 具体的に構成メンバーを記入してください。

小中高教員4名、臨床心理士1名、愛媛県教育委員会1名、スクールカウンセラー1名、八幡浜保健所1名、えひめ若者サポートステーション1名、ジョブカフェ愛ワーク1名、計10名でおおずふれあいスクール実行委員会を構成した。
また、12名の大洲市内小中学校教員によって専門委員会を組織し、3名グループに分かれ、月に2回程度スクール生の活動を直接支援した。

（2）開催予定

| 月 日 | 内 容 |
|--------|--|
| 6月24日 | おおずふれあいスクールの説明、 スクールの活動状況及び地域の情報交換 スクールの年間活動計画、 活動企画運営の意見交換 |
| 11月11日 | スクールの活動状況及び地域の情報交換、 スクールの実施報告 活動企画運営の意見交換 |
| 2月10日 | スクールの活動状況及び地域の情報交換、 スクールの実施報告 事業評価、 来年度への志向 |

3. 事業（調査研究）の実施

(1) 運営体制

大洲市教育委員会、八幡浜保健所と共催し、愛媛県教育委員会の後援を受け、各機関に実行委員を依頼し、不登校生徒及びひきこもりがちな青年の自立と社会への適応能力の育成を支援した。

(2) 自然体験活動指導者養成研修会の実施

標記事業のみ記入

| 期 日 (期 間) | 養成種別 (全体・補助) | 会場 都道府県 | 会場（施設）名 | 養成人数 |
|--------------|-----------------|------------|---------|------|
| 実施なし | | | | |

養成する指導者（全体指導者と補助指導者）別にご記入ください。複数回実施の提案も可能です。

(3) 事前研修会（スタッフ研修）等の実施

| 期 日 (期 間) | 内 容 | 実施場所 | 参加人数 | 配置 指導者数 |
|--------------|-------------------|---------|------|------------|
| 6月26日 | 第1回専門委員会 | 青少年交流の家 | 16名 | 5名 |
| 6月26日 | 思春期親の会 | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 7月9日 | 第1回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 10名 | 2名 |
| 7月24日 | 思春期親の会 | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 8月28日 | 思春期親の会 | 青少年交流の家 | 7名 | 2名 |
| 9月3日 | 第2回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 9名 | 2名 |
| 9月25日 | 思春期親の会 | 青少年交流の家 | 7名 | 2名 |
| 10月1日 | 第3回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 6名 | 2名 |
| 10月16日 | 第2回専門委員会 | 青少年交流の家 | 14名 | 4名 |
| 11月12日 | 第4回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 6名 | 2名 |
| 11月13日 | 思春期親の会 | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 12月3日 | 第5回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 7名 | 2名 |
| 12月18日 | 思春期親の会（平林茂代氏の講演） | 青少年交流の家 | 15名 | 3名 |
| 1月10,11日 | 教育相談に関する研修会（関連事業） | 青少年交流の家 | 87名 | 4名 |
| 1月14日 | 第6回親の会夜の集い | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 1月22日 | 思春期親の会（青木真利恵氏） | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 1月29日 | 思春期親の会（青木真利恵氏） | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |
| 1月29日 | 第3回専門委員会 | 青少年交流の家 | 16名 | 5名 |
| 2月26日 | 思春期親の会（青木真利恵氏） | 青少年交流の家 | 8名 | 2名 |

(4) 体験活動(調査研究)等の実施

| 期 日 (期 間) | 内 容 | 実施場所 | 参加人数 | 配置 指導者数 |
|--------------|---|------------------|------|------------|
| 6月30日 | 農園作業(ジャガイモ収穫) | 大洲市内体験農園 | 3名 | 3名 |
| 7月8日 | 農園作業(ピーマン等夏野菜の収穫) | 大洲市内体験農園 | 3名 | 3名 |
| 7月17日 | 農園作業(夏野菜の収穫) | 大洲市内体験農園 | 4名 | 3名 |
| 8月25日 | 農園作業(肥料まき、野菜収穫) | 大洲市内体験農園 | 2名 | 2名 |
| 9月3日 | 農園作業(冬野菜種まき) | 大洲市内体験農園 | 2名 | 3名 |
| 9月17~18日 | 大野ヶ原ワークキャンプ(職場体験 酪農) 酪農家、自然の家にあいさつ 大野ヶ原ブナ原生林フィールドワーク | 西予市大野ヶ原 | 2名 | 2名 |
| 10月7日 | 農園作業(さつまいも、栗収穫) | 大洲市内体験農園 | 4名 | 3名 |
| 10月18日 | 交流の家フェスティバル ボランティア活動(関連 事業) 紙クラフトの実施 木工クラフトの実施 | 青少年交流の家 | 4名 | 2名 |
| 10月29日 | 農園作業(たまねぎの苗植え) | 大洲市体験農園 | 5名 | 3名 |
| 11月5~7日 | いきいき野外体験 開会行事、出発 倉敷市散策 吉備青少年自然の家入所、天体観測 吉備団子作り フォトオリエンテーリング スポーツ、レクリエーション(ユニホック) 吉備青少年自然の家にお礼、閉会行事 | 岡山県吉備青少年 自然の家 | 9名 | 5名 |
| 11月18日 | 収穫祭(収穫した野菜を使って料理、会食) | 青少年交流の家 | 4名 | 6名 |
| 12月24日 | 農園作業(野菜収穫) | 大洲市内体験農園 | 4名 | 3名 |
| 1月8日 | 農園作業(野菜収穫) | 大洲市内体験農園 | 3名 | 3名 |
| 2月2日 | 農園作業(除草、畑の整備) | 大洲市内体験農園 | 2名 | 3名 |
| 2月16日 | エンジョイ・コミュニケーション(二宮美奈講師) アイスブレイク、コミュニケーション 絵本を使ってのコミュニケーション | 青少年交流の家 | 4名 | 5名 |
| 2月18日 | 農園作業(ジャガイモ植えつけ) | 大洲市内体験農園 | 2名 | 3名 |
| 3月2~4日 | 佐田岬ワークキャンプ(職場体験 蜜柑収穫) 開会、農家の方にあいさつ 職場体験 蜜柑収穫 交流会 閉会、農家の方にお礼 | 伊方町 | 6名 | 2名 |

| 期 日 (期 間) | 内 容 | 実施場所 | 参加人数 | 配置 指導者数 |
|--------------|--|---------|------|------------|
| 3月5日 | ボランティア活動(キャンプ場周辺の清掃) 学校開業中の月～木曜日は、3人の指導員を配置し、毎日、参加者の学習活動、相談等の支援を行う。 | 青少年交流の家 | 5名 | 5名 |

「小学校自然体験活動プログラム開発事業」については、試行事業における協力校もご記入ください。

「青少年相互交流推進事業」については、交流の相手先をご記入ください。

廃校利用の場合は、廃校名と所在地を必ずご記入ください。

(5) 各体験活動(養成研修会)の概要

(2)(3)(4)に記載された日程について、スケジュールや指導者等できるだけ具体的にご記入ください。

ボランティア活動：交流の家周辺のごみ清掃などを行った。

職場体験：農業(果樹栽培、酪農)を体験した。

生活体験活動：調理、掃除、宿泊体験、農園作業、収穫祭などを行った。

実行委員会：ふれあいスクールへの引きこもりがちな青年等の受入状況及び活動状況、卒業生の進路状況、広報・スクール生募集などについて話し合った。小中高教員4名、臨床心理士1名、愛媛県教育委員会1名、スクールカウンセラー1名、八幡浜保健所1名、えひめ若者サポートステーション1名、ジョブカフェ愛ワーク1名、計10名でおおずふれあいスクール実行委員会を構成した。

専門委員会：ふれあいスクールへの引きこもりがちな青年の受入状況及び活動状況、卒業生の進路状況、行事計画、活動内容、保護者対象の研修会などについて話し合った。12名の大洲市内小中学校教員によって専門委員会を組織した。

思春期親の会：ふれあいスクール生やひきこもりがちな青年の保護者を対象にした自己発見ワークショップ等の活動を通して、保護者への支援活動を行った。

親の会夜のつどい：ふれあいスクール生やひきこもりがちな青年の保護者の意見交換会を通してカウンセリングを行った。

エンジョイコミュニケーションについては、講師を招いて自分を見つめることや人との関わりを中心に楽しく活動する。

- (理由) ・様々な活動やその中でのふれあいを通して、自己主張し、社会性を身に付け、進路実現や学校復帰に向けての力になっていると思う。
- ・環境に恵まれた施設なので、居場所の提供はもとより、様々な自然体験活動や社会体験活動に参加することで家に引きこもっているよりは豊かな経験ができ、様々なことを学ぶ機会を得ていると考える。
 - ・来ている生徒は達成できていると思うが、参加できなかった生徒についてはわからない。

3 その他、何でも気づいたことをお書きください。

- ・何年も実行委員をしてきて、活動内容のねたが尽きた時、新しい委員やスタッフの方に助けていただいて、助かった。実行委員を8年したので、別の方に交代したい。(門戸を広く)
- ・ふれあいスクールは学校へ行けない生徒の居場所であり、大洲にとって大切な存在だと思っています。今後ともよろしくお願いします。
- ・1年目なので昨年度のことがあまりわからず比べることはできませんが、参加していた生徒はいい顔をしていたと思います。
- ・専門委員として参加させて頂く中で自分にもよい出会いや交流があり、大変有意義な時間になりました。

成 果

(スクール生の声)

- ・この1年間は、泣いたり笑ったりいろいろあったけど、去年とくらべると、スクールに来る回数も増えたとし、たくさんの人と知り合えて、いろんな体験ができて、去年より成長できた1年間だったと思います。今年も、少しでも成長できるように頑張りたいです。
- ・あまり、ふれあいスクールには来れていないけど、いろんな意味で成長した。学校では学べない事も、ふれあいスクールに来ると学べて、すごく楽しかった。今では、新しい友だちもできて、「色々な事に挑戦しよう」と思えてきて、不登校の子も学校に、いっぱいいるので、ふれあいスクールのことを教えたい。

日々の学習活動やスポーツ活動を中心にスクール生はいきいきと活動していくようになった。金曜日のチャレンジデーやその他の日でも学校に登校する日も少しずつ増えてきた。

また、スクールの中での人とのふれあいを通して、スクール生は人間的に大きく成長した。さまざまな体験活動を通して、前向きな姿勢やチャレンジ精神も身につけたように思える。青年のスクール生はこれからの生き方を見つけだそうと努力している。

親の会は、保護者が本音で語り合い、とても意味のある活動である。これからも継続が望まれる。

課 題

小中学生から青年までとスクール生の年齢幅が広いので、先輩後輩の関係など良い面もあるが、一緒のルームでの活動でややとまどうスクール生もでてきた。毎日の活動のあり方等これからの課題である。

成果の普及

9月27日(土)に愛媛県カウンセラー協会後援のえひめ若者サポートフォーラムが、『今、若者の自立支援に求められるネットワークとは - ニート・引きこもり・発達障がいの若者が社会とつながるために - 』と題として開催された。その第1分科会「自立に向かった若者たち」の中で、おおずふれあいスクールでの活動内容や参加者の様子を発表した。

また、教育委員会や社会福祉課・保健所・ジョブカフェ・若者サポートステーションなどとの連携を強め、ふれあいスクール体験活動の普及・啓発に努めた。広域的に普及や啓発を行うために、ホームページに掲載した。(プライバシー保護に細心の注意をはらった。)

また、地元の大洲市の青年会議所から、青少年健全育成の取組で、ふれあいスクールに訪問があり、来年度の取組につなげていく話を行った。